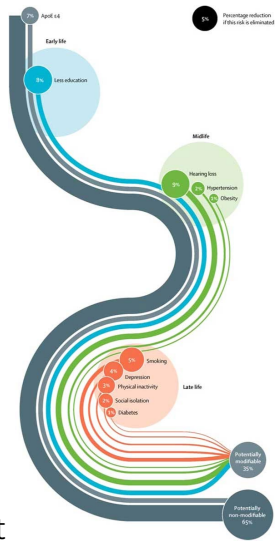
難聴は認知症のリスク!?　補聴器の重要性について

- 我が国の認知症患者は年々増加しており、2025年には700万人、65歳以上の高齢者の5人に1人に達することが見込まれています。
- 2017 年、世界で最も権威のある医学雑誌「Lancet」の国際委員会は「認知症の約35%は修正可能な9つの危険因子に起因する」と発表しました。「難聴」は危険因子の１つに挙げられ、その際　「予防できる要因の中で、難聴は認知症の最も大きな危険因子である」と指摘されました。
- 予防策として補聴器の使用が推奨されていますが、日本は先進国の中で補聴器普及率が最下位の状況です。難聴対策議員連盟の提言「Japan Hearing Vision」に基づき、2020年から政府による難聴への取り組みが強化されています。日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会も補聴器の普及に努めています。

人生における予防可能な9つの認知症リスク因子と寄与度

小児期（18歳以下）
　教育（8%）
成年期（45～65歳）
　難聴（9%）
　高血圧（2%）
　肥満（1%）
老年期（65歳以上）
　喫煙（5%）
　うつ状態（4%）
　運動不足（3%）
　社会的孤立（2%）
　糖尿病（1%）



出典：Lancet

聞こえの低下が及ぼす影響

- 注意力の低下
- 会話の聞き取りの低下
- コミュニケーション力の低下
- 記憶力の低下
- 仕事の効率の低下
- 他人からの認識・関心の低下
- イライラ、憂うつなどの精神的な不安定
- 引きこもり、社会からの孤立化

こんなことはありませんか？ひとつでもあてはまるものがあれば、難聴の可能性があります。

- ✓ 人がたくさんいる場所での会話が聴き取りにくい。
- ✓ 聞き返すことが多い。
- ✓ テレビやステレオのボリュームが大きいと言われる。
- ✓ 電話が聴き取りにくい。
- ✓ 音は聞こえるが、何を言っているのかはっきり聞こえない。
- ✓ 大勢での会話についていくのが難しい。

補聴器は多くの難聴の方にとって有用な医療機器ですが、適切な調整と訓練が重要です。調整と訓練が不十分な場合、補聴器に対する満足度が低くなることが多く、このため日本ではあまり普及していません。当院では3店の補聴器販売店と協力して、週２回の補聴器外来を行っています。その方の難聴に適した補聴器の選択と調整、補聴訓練を行い、「役に立つ補聴器」の普及に力を入れています。聞こえに不安のある方、補聴器に興味はあるけどどうしたらよいか迷っている方は、労災病院耳鼻咽喉科を受診されてください。

文責：　熊本県補聴器キーパーソン、熊本労災病院耳鼻咽喉科部長　増田聖子